

平成30年 第1回
京田辺市議会定例会

代表質問（質問項目・要旨）

傍聴用

2月28日（水）

京田辺市議会

	会 派 名	議員氏名	質問時間
1	一 新 会	い ち だ ひろし 市 田 博	5 5 分
2	日本共産党京田辺市議会議員団	よ こ や ま え い じ 横 山 榮 二	4 5 分
3	み ら い 京 田 辺	か わ も と た か し 河 本 隆 志	3 5 分
4	公 明 党	さ く ら い た つ し 櫻 井 立 志	3 0 分

《質問時間について》

会派構成議員数に応じ、基本時間20分に所属議員一人当たり5分を加算した時間としています。(質問時間のみ)

[例：7人会派の場合] 基本時間20分＋(7人×5分)＝55分

1 京田辺の未来をつむぐ事業の展開について

- (1) コンパクトシティ構想、田辺中央北側地区のまちづくり事業整備に係る、新市街地整備に向けた基本構想の作成、事業手法の検討や当該事業の効果、検証を行うとしているが、具体的手法（PFI）施行をどのように生かしていくのか問う。
- (2) 大住工専地区拡大支援事業として、組合施行設立に向けた現況と進捗、今後の事業手法について問う。
- (3) 都市計画道路の大住草内線の完成による地域産業の活性化、また、大住工専および草内工専の連携で新たな企業立地と受け皿整備による雇用創出について問う。
- (4) 既存の生活道路や住環境インフラ整備について問う。

2 主要基盤整備およびインフラ整備について

- (1) 山手幹線道路の全線開通に伴い、周辺道路との整合性および渋滞緩和の対応について問う。
- (2) 新名神高速道路側道の進捗状況について、開通はいつごろを計画しているのか。また、府道八幡木津線との交差部分に信号機は設置されるのか。
- (3) 府道八幡木津線の三野から国道1号線までの道路拡幅整備について、京都府にどのような整備計画を要請しているのか問う。

3 教育施策について

- (1) 中学校給食の実施に向けた取り組みについて、昼食等検討委員会で検討、答申された計画は。実施に向けた市長の考えを問う。
- (2) デリバリー弁当の検証、選択式弁当による検討の結果について問う。

(一新会)

- (3) 幼稚園の全保育室に空調の設置を進めるとしている。本年度の夏季までには全室整備ができるのか、見通しを問う。
- (4) 日本一子育てしやすいまちをめざし取り組まれている、待機児童の解消にどこまで対応でき、今後も引き続き対応していくのか問う。

1 政治経済社会情勢について

- (1) 安倍政権が憲法に基づく政治、立憲主義を土台から崩すという異常事態をつくりだした。その総仕上げとして9条改憲の野望をむき出しにしている。憲法9条を守ってほしいという声は国民多数の声であると考えるが、市長の認識を問う。
- (2) 施政方針では、「経済については、企業の業績回復や好調なインバウンドをうけて確実に景気が回復傾向にある」と述べているが、「アベノミクス」の失敗で、この5年間で、大企業は空前の利益を上げた。その一方で実質賃金は低下、「貧困と格差」が広がっている。市長の認識を問う。
- (3) 安倍首相の「働く人の視点・立場に立った改革」は財界の立場に立った「働かせ方大改悪」である。真に働く人の立場に立った労働基準法の抜本改正が必要と考えるが、市長の認識を問う。
- (4) 原発を再稼働せず、「原発ゼロ」の決断と一体に、再生可能エネルギーの飛躍的普及を図るべきと考えるが、市長の考えを問う。
- (5) 昨年7月国連で歴史的な核兵器禁止条約が採択され、各国で署名が開始された。日本政府に批准を求めよ。また「ヒバクシャ国際署名」に賛同し市長も署名をすべき。市長の考えは。

2 市政運営の基本方針について

- (1) アベノミクスの経済政策で「貧困と格差」が広がった。年金の改悪、医療費負担の引き上げ、社会保障の削減政策のもとで、市民の暮らしは困難かつ深刻になっている。
 - ア 市民の生活実態について、市長はどのように認識しているのか明らかにされたい。
 - イ 市民の暮らしを守る対策についての市長の見解を求める。

(日本共産党京田辺市議会議員団)

- (2) 北陸新幹線京都南伸計画において、京田辺市松井山手周辺に新駅設置を打ち出した。莫大な地元負担も予想され、将来のまちづくりに重大な影響を与えるものであり中止すべきと考えるが、市長の認識を問う。
- (3) 市民本位のまちづくりを進めるためにも「仮称市民参加基本条例」を制定し、市民本位を貫き、計画と公表、市民の参加と合意の原則で進めること、また行政内容の充実を示す施策を打ち出すことを求める。

3 重点施策について

- (1) 2018年4月から国民健康保険制度が都道府県単位で運営されるこの機会に、高すぎる国保税の引き下げを。国や府に対して具体的援助を求めよ。
- (2) 介護保険料及び利用料の負担軽減を。
- (3) 京都府内で2番目に高い都市計画税を当面0.2%に引き下げること求める。
- (4) 京都府に老人医療助成制度（マル老）の利用について、本人負担を1割とし、所得条件を2014年までの条件に戻し、対象年齢を74才まで広げるよう求める。
- (5) 府営水道の基本料金について、府へ抜本的見直しと料金の値下げを求めよ。また、上下水道への消費税転嫁、無利子、長期の経営資金の提供は行わないこと。
- (6) 農業後継者や退職後高齢者の農業就農者には、無利子、長期の経営資金の提供、就農奨励金の支給など「経営維持対策」を求める。
- (7) 中小零細業者の実態調査に取り組み、地域経済の活性化振興をはかるため「中小企業振興基本条例」を制定すること。
- (8) 枚方市東部清掃工場、及び新たに建設する新ごみ焼却場に係る諸問題に対し、市民の意見をよく聴取し、市民の安全を確保すること。またごみ回収業務については、粗大ごみ回収や市民によるごみ持ち込みを無料にすることを求める。

(日本共産党京田辺市議会議員団)

- (9) 文部科学省の諮問機関、中央教育審議会が「学校における働き方改革」についての審議の「中間まとめ」を決めた。各学校にタイムカードを設置するなど時間外勤務の実態を正確に把握し、対策が必要と考えるが市の見解は。
- (10) 学校施設・整備を計画的に改修・充実することを求める。
- (11) 待機児童をつくらないための対策を求める。
- (12) 留守家庭児童会（学童保育）の保育時間延長、及び指導員の確保、身分、賃金の保障、そして安心して保育できる施設の充実を。
- (13) 田辺中央北側における新たな文化施設等についての内容を明らかにし、市民の合意のもとに進めるべき。
- (14) 南部住民センターの早期実現を。
- (15) 青年の中で、貧困と格差が増し、ブラック企業・ブラックバイト等の問題がある。市としても独自の青年対策室が必要と考えるが市の考えを問う。

1 基本認識について問う

経済については、景気が回復傾向にある一方、労働人口が減少していることから「働き方改革」によってワーク・ライフ・バランスの実現や生産性を向上させることが重要であるとの認識をされているが、京都府内で一番平均年齢が若い、また人口が増加している本市において、将来を見据えたまちづくりに向け、今後はどのような施策展開を講じるべきと考えるのか。

2 基本政策と市政運営の視点について問う

- (1) 魅力ある中心市街地の形成に向け、文化ネットワークの中心となる複合型公共施設と商業施設を核とした新市街地整備や新田辺駅東側の市街地再整備において、本市が考えるグランドデザインとは。
- (2) 高速道路インターチェンジ周辺や学研都市「南田辺東・西地区」における企業立地の受け皿整備を進めようとしているが、構想にかかる総事業費は。
- (3) 徹底した行革プランの推進や受益者負担のあり方も含め、持続可能な財政基盤を確立するために講じる具体的な手法とは。
- (4) 積極的に行動する職員を育成し、高い政策能力を備えた組織に育てていくためには分析が必要と考える。課題と合わせて克服すべきことは。

3 平成30年度予算編成方針について

- (1) 市民満足度の向上に資する予算において、事業の実施手法や実施時期等にはどのような創意と工夫が考えられるのか。
- (2) 「新行政改革プラン」に基づいて財政健全化を推進するために、事務事業評価と違う視点からの検証も必要と考えるが、市の見解は。

4 平成30年度の主要施策について問う

- (1) 防災・減災体制の充実強化に向けて、防災広場の整備も進めているが、今後の見通しについて問う。
- (2) 幼保連携型認定こども園、認可保育園、松井ヶ丘保育園への支援と合わせて、0、1、2歳児の入園希望者への施策も必要と考える。施設整備も含めて検討すべきと考えるが、市の見解は。
- (3) 男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスの推進に向け、男性の育児休業取得を促進していく施策展開が必要と考えるが、市の見解は。
- (4) 中学校給食実施に向けての取り組み状況について、現時点で考えられる実施までのスケジュールは。
- (5) 2021年「ワールドマスターズゲームズ」で、ハンドボール競技会場となるが、そのことによる施設整備は必要と考えているのか。
- (6) バス交通について路線再編に取り組むとしているが、具体的な計画は。
- (7) 「空家・空室バンク」の創設、「空家等対策計画」の策定時期は。
- (8) 田辺高等学校と連携した工場見学会における構想と実施時期は。

1 北陸新幹線新駅を見据えた市北部のまちづくりについて

昨年は、新名神高速道路の城陽―八幡・京田辺間が開通し、北陸新幹線の松井山手付近の新駅設置も決定した。そして本年3月には、山手幹線の全線が開通する。ますます松井山手付近の交通ポテンシャルの高まりが増してくるとともに、本年は、JR松井山手駅周辺に、宿泊型温泉施設やショッピングモール、大型物流センターの開業とめまぐるしく発展の様相を見せてきた。そこで市長は将来に向けて、北部の魅力あるまちづくりの基盤整備をどのように進めるのか、下記の課題について問う。

- (1) 交通渋滞問題
- (2) 公共バス路線(くずは方面から新田辺駅に向かうダイヤはいつも遅延)
- (3) 新駅設置を見据えた駅前ロータリー整備と市街地区画整備
- (4) 公共施設配備の計画

2 少子高齢社会を見据え、魅力的な都市環境・住環境の整備について

- (1) 田辺中央北側に計画しているコンパクトシティについて、基本構想や土地利用の策定と組合方式による区画整理事業の組織を起ち上げ、新市街地整備を進めるとしているが、その概要について市長に問う。
- (2) 高齢化や人口減少に伴い、空家等の増加が見込まれる。「空家・空室バンク」の創設や相談会を開催し、利活用を促すとしている。また、「空家等対策計画」を策定するとしているが、その概要について問う。

3 交通ポテンシャルを生かした活力と賑わいのある観光振興について

- (1) TOJや全国小学生ハンドボール大会、いす1グランプリなどのスポーツイベントを生かして、どのように観光振興につなげるのか。

(公明党)

- (2) 先日、茶畑の景観を観光資源として、和東町に大手リゾートホテルチェーンが宿泊施設を整備すると発表された。本市も交通ポテンシャルと玉露や一休さんなどの観光資源をつなぎ、観光振興を図るべきでは。
- (3) 観光振興には、本市の魅力を広く全国に発信することが大事である。昨年、関西空港の玄関口である泉佐野市と協定を結び、本市の魅力発信と特産品のPR、販売に取り組んでいる。このような発信・アピールを全国に展開すべきと考えるが。

4 市民の安全・安心をまもる防災・減災対策のまちづくりについて

- (1) 市長は、昨年に京奈和道田辺西インター西側に大規模災害の拠点となる防災広場の設置を決定した。この防災広場に配備する機能は決定したのか。またそれに向けての準備はどこまで進んでいるのか、市長に問う。
- (2) 北部防災公園として位置付けられている諏訪ヶ原公園に配備される防災機能はどこまで進められているのか。また今後の設置予定は。

5 疾病の予防や早期発見、早期治療につなげる検診事業について

- (1) 市長は市民の健康への意識啓発と健康管理の促進に取り組んでいるが、平成30年度から、子宮がん検診、乳がん検診に新たな方法で取り組むとしている。どのような方法で取り組むのか。
- (2) 本年1月に市の巡回検診として、肺がん検診を薪地域のコンビニの駐車場で実施した。近くのコンビニで気軽に検診が受けられると地域の受診者から喜ばれており、受診率向上につながると考える。今後は市内全域で巡回して、コンビニ検診を実施してはどうか。

6 本市の未来を拓く「京田辺っ子」を育む教育環境の整備について

(公明党)

市長は、昨年12月議会で中学校給食について、早い時期に決断したいと給食実施に向け、一歩踏み込んだ発表をされた。そして今回の施政方針で「京田辺市中学校昼食等検討委員会」の検討経過を踏まえ、給食の実施に向けて取り組むとしている。どのような方式で、いつから実施を考えているのかを市長に問う。